

TV Supren への大使ビデオメッセージ（5分：和文）

TV Supren をご覧の皆さん、こんにちは。駐ブラジル日本国大使の山田彰です。

現在国際社会は、新型コロナウイルスによって、これまで経験したことのない困難に直面しています。

日本でも、これまで懸命に対策を講じてきました。1月後半以降に到来した、中国経由の第一波の流行に対しては、小規模な集団感染を早期に発見し、彼らに対する外出自粛要請等の対策を迅速に、徹底的に講じました。これによって第一波の流行を押さえ込むことができたと考えられます。

また、3月末以降の欧米経由の第二波についても、外出自粛や、密閉・密集・密接の回避等の努力を積み重ねてきました。現在感染者の増加はピークアウトし、一時は一日あたり700名近くに達した感染者数は、最近では一日30~40名前後までに減少しました。

ただし、有効な治療法やワクチンが確立されるまで感染防止の取組に終わりはなく、ある程度の長期戦を覚悟する必要があります。日本では、密閉・密集・密接を生活のあらゆる場面でできる限り避けて感染防止に取り組む、新しい生活様式を作り上げようとしています。

治療薬・ワクチンの開発に向けた国際的な取組にも、日本政府は協力していきます。5月4日、その開発等のための資金調達を呼びかける「新型コロナウイルス・グローバル対応サミット」が開催されました。そこで安倍総理は、日本は国内外において治療薬・ワクチンの開発を推進していること、医療体制の脆弱な途上国に対し保健システム強化のための支援を拡充していることを強調し、日本としてこれらの分野で積極的に貢献していく旨を表明しました。

協力の輪は、ブラジルにおける民間部門でも広がっています。例えば、日本の自動車企業・トヨタ及び本田は、ブラジル連邦政府が実施している、人工呼吸器の修理プロジェクトに協力し、それぞれの工場を請け負っています。また、日本の食品関連企業・味の素は、サンパウロの各病院に対して、関連の医療機材の調達のための資金援助を行っています。

更にサンパウロの様々な日系団体が協力して、寄付を募り、サンパウロ市郊外の貧困層集住地区に食事を配布するプロジェクト「Água no Feijão」を展開しています。

皆で前を向いて、支え合って協力していければ、きっと現在のこの困難も乗り越えられると思います。引き続き共に頑張りましょう。

（了）